

日南海岸サイクルツーリズム構想(案)



平成 28 年 2 月 23 日

日南海岸サイクルツーリズム協議会

目次

第1章	はじめに	1
1.	構想策定の意義	1
2.	構想の対象エリア	1
第2章	日南海岸の現状と課題	2
第1節	日南海岸が有する多様な地域資源	2
1.	南国宮崎を象徴する自然豊かな景観資源	2
2.	神話をはじめとした歴史文化が醸成した個性的な観光資源	2
第2節	サイクルツーリズムの気運の高まり	2
1.	国内におけるサイクルツーリズムの普及	2
2.	日南海岸におけるサイクリング利用拡大の兆し	3
第3章	目指す将来像	4
第1節	日南海岸サイクルツーリズムの実現に向けた基本理念	4
第2節	目指す将来像	4
1.	明確化された自転車走行空間と確立された走行サポート環境	4
2.	サイクリストの増加による新たな需要拡大	4
3.	魅力再発見による新たな観光スタイル創出	4
第3節	将来像を描く計画期間	4
第4章	基本的な対応方針	5
第1節	日南海岸の多様な地域資源を有機的に結びつけたサイクリングルートの提供	5
1.	レベルを考慮	5
2.	交通拠点等を起点に魅力スポットをつなぐ	5
3.	全路線が候補	5
4.	エリア特色を反映	5
5.	安全性と快適性に配慮	5
第2節	日南海岸サイクルツーリズムを支える広域的かつ総合的な取組の推進	5
1.	日南海岸の実情に応じた自転車走行空間の整備	5
2.	サイクリストのニーズに配慮したサポート環境の拡充	5
3.	サイクリストの利便性を高める取組の推進	6
4.	地域交流による憩いやくつろぎサービスの提供	6
5.	サイクルイベントの充実・拡大による交流の促進	6
6.	サイクルツーリズムの普及・拡大を通じた地域振興の新たな展開	6
第5章	構想の実現に向けて	7

第1章 はじめに

1. 構想策定の意義

近年のサイクリングブームにより、日南海岸においてもサイクリストの走行が見られるようになった。また、国道 220 号を基軸に毎年開催されている「グレートアース宮崎ライド」には県内外から多くの参加があるなど、盛り上がりを見せている。この機運を更に増進させるため、風光明媚な日南海岸を縦走する国、県、市道等をサイクリングロードと位置付け、その利用を促進させることが求められている。こうした地域の要請に応えていくため、広域的かつ総合的な観点から日南海岸の今後の自転車利用環境の形成に関して重点的に取り組むべき基本的な対応方針を明らかにする日南海岸サイクルツーリズム構想（以下、「本構想」という）を策定するものである。

2. 構想の対象エリア

本構想は、日南海岸を縦走する国道 220 号、448 号を基軸に、両線に接続する県道、市道等も一体的に日南海岸サイクリングロード（サイクルツーリズム）として位置づけを行うものとする。

第2章 日南海岸の現状と課題

第1節 日南海岸が有する多様な地域資源

1. 南国宮崎を象徴する自然豊かな景観資源

日南海岸は、太平洋に面する長大な海岸線上に自然の営みにより変化に富んだ美しい自然地形が続き、鬼の洗濯板ともいわれる奇勝青島や堀切峠、いるか岬、御崎馬の生息する都井岬など著名な景勝地で形成される。中でも青島の隆起海床と奇形波蝕痕や御崎馬は、国の天然記念物に指定されている。さらに、温暖な気候に恵まれてきたことから、国道 220 号をはじめとした海岸線を走る道路沿線には、フェニックスやピロウ、ワシントニアパームなどの亜熱帯植物の宝庫でも知られ、「青島亜熱帯性植物群落」として特別天然記念物に指定されている。また、ハイビスカスやジャカランダ、コバノセンナなど開花時期に応じて沿道を彩る鮮やかな花々も多数生息しており、雄大な海や空の青と相まって、国内でも他の地域には類を見ない“南国宮崎”と称されるにふさわしい自然豊かな景観資源を有している。

宮崎市から日南市を経て鹿児島県に至る全長 100km 以上の海岸線は、昭和 30 年に日南海岸国定公園に指定されており、中でも宮崎市から都井岬までの国道 220 号をはじめとする道路は「日南フェニックスロード」の愛称で多くの方々に親しまれてきた。豊かな景観資源を道が結ぶ観光道路は、「日南海岸きらめきライン」として日本風景街道にも登録されている。

2. 神話をはじめとした歴史文化が醸成した個性的な観光資源

日南海岸は、“神話のふるさと宮崎”を象徴する青島神社、鵜戸神宮など有名な歴史文化施設が点在しており、県内外から多くの観光客を受け入れてきた。また、宮崎市の野島神楽や日南市北郷町の潮獄神楽など神話にゆかりのある神社では、神楽開催の時期に多くの見学者で境内が賑わう。さらに、日南市飫肥の飫肥城跡及び武家屋敷周辺地区は、重要伝統的建造物群保存地区に指定されており、風情ある歴史的な町並みが魅力である。

南宮崎から青島を経由し、内海までの海岸線を運行していた旧軽便鉄道や文化庁の登録有形文化財に登録される日南市油津の老舗金物店である杉村金物本店の赤レンガ造りの倉庫や油津赤レンガ館も我が国の近代史を支えてきた貴重な歴史文化施設である。また、油津の町並みと堀川運河沿いの歴史的風致は、日本の美しい歴史的風土 100 選や未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選に選ばれている。

「なんごう」、「酒谷」、「フェニックス」の 3 つの道の駅や港の駅「めいつ」は、施設としての休憩機能に加え、地域と文化に触れることができる魅力的な観光施設として多くの観光客を受け入れている。

第2節 サイクルツーリズムの気運の高まり

1. 国内におけるサイクルツーリズムの普及

愛媛県今治市と広島県尾道市を結ぶ全長約 70km の「瀬戸内しまなみ海道」は、国内初となる海を渡る自転車道（瀬戸内海横断自転車道）として、その独自性を活かした魅力を全国に発信し、サイクリストを受け入れるための取組を官民一体となって進めた結果、今では国内外から多くのサイクリストが訪れる国内でも有数のサイクリングのメッカとしての地位を築いている。

栃木県宇都宮市では、アジア最高位の自転車ワンデイロードレースである「ジャパンカップ」が毎年開催され、世界の第一線で活躍する選手たちを間近で見られる国内唯一の大会として、その魅力を戦略的に発信しており、観客動員数は右肩上がりであり地域に大きな経済効果を生み出している。

また、新たな観光客の掘り起こしに成功している先進的な取り組みとして、北海道では民間主導で地域の魅力をつないだサイクリングツアーが企画され、奈良県ではトイレやスタンドなど受け入れ施設の充実した休憩所を認定してホームページ上で情報発信している。岐阜県飛騨高山では、スローペースの里山サイクリングを案内するガイドの育成を進めている。

このように、近年の健康志向ブームから自転車の魅力が再認識され、国内におけるサイクリストが増加する中、サイクリングと観光を結びつけた地域振興の新たな取組となるサイクルツーリズムの動きが全国に広まりつつある。

2. 日南海岸におけるサイクリング利用拡大の兆し

近年、日南海岸では国道220号をはじめとしてサイクリングを楽しむ多くのサイクリストを見かけるようになった。このような中、地元ではサイクリングの交通安全を祈願する野島神社のお守りが駄肥杉づくりで2種類ありサイクリストの間で人気を集めている。一方、国内でもトリアスロンの五輪選手強化に向けてシーガイアがナショナルトレーニングセンターに指定されるなど、サイクリングの需要拡大へ向けた地域の気運が高まっている。

2012年から毎年開催されている「グレートアース宮崎ライド」は、絶景の日南海岸を走行できる上級者向け本格派ロングライドとして人気の高まりを見せており、県内のみならず国内外から約600名の参加がある。それぞれの休憩ポイントでは地元の特産品が振る舞われ参加者と地域との交流が盛んに行われている。また、初心者でも気軽に参加できる「わくわくサイクリング in くしま」では、サイクリングとイチゴ狩り体験を結びつけるなど地域の一体的な取組により地域のにぎわい創出が図られている。さらに、“ぼたりんぐ”をテーマに自転車と散歩を結びつけて、サイクリストを日南市内の街中や観光地へ誘導し回遊させる仕組みづくりを検証するための市内回遊社会実験を実施する動きもある。

油津港への大型クルーズ船の相次ぐ入港により外国人観光客の受け入れ体制づくりも活発化してきており、油津港を発着地としたインバウンド観光における将来的な自転車の活用可能性も期待される場所である。また、鉄道駅を発着地と位置づけてJR日南線を活用したサイクルトレイン導入に向けた社会実験も実施されるなどサイクリストの利便性向上に向けて多様な公共交通機関との連携を促進する動きがある。

このように、日南海岸におけるサイクリング利用拡大の兆しがある中で、これらの取組を一体的なものとして推進しさらに加速させていくためには、日南海岸の有する多様な地域資源をサイクリングしながら満喫できる魅力として再認識し、国内外に向けて積極的に情報発信していくとともに、サイクリストの受入体制づくりに向けた地域の一体的な取組が推進される地域へ方向転換していくことが重要である。近年のサイクリングブームによって享受される地域振興の力を日南海岸に引き込むとともに、日南海岸を訪れるサイクリストにとって魅力的な地域へと発展していくことが求められている。

第3章 目指す将来像

第1節 日南海岸サイクルツーリズムの実現に向けた基本理念

国内におけるサイクルツーリズムの機運の高まりを好機として、サイクリングを通して日南海岸の有する多様な地域資源を有機的に結びつけた将来展望を描く。日南海岸サイクルツーリズムとしての地域ブランドを確立して日南海岸の賑わいの創出を図る。

第2節 目指す将来像

1. 明確化された自転車走行空間と確立された走行サポート環境

国内外のサイクリストを惹きつける魅力あるサイクリングロードのある地域となること

2. サイクリストの増加による新たな需要拡大

国内外のサイクリストが訪れることで新たな需要を拡大する地域となること

3. 魅力再発見による新たな観光スタイル創出

国内外のサイクリストが何度も訪れたい魅力ある地域となること

第3節 将来像を描く計画期間

本構想では、今後概ね10年間における日南海岸サイクルツーリズムの実現に関する基本的な対応方針を明らかにするものとする。

第4章 基本的な対応方針

第1節 日南海岸の多様な地域資源を有機的に結びつけたサイクリングルートの提供

日南海岸サイクルツーリズムを推進するため、サイクリングルートを設定する。

サイクリングルートは、サイクリストの多様なニーズに応えつつ、日南海岸にある多様な地域資源を十分に活かすことのできるものとするため、5つの視点に着目して設定するものとする。

1. レベルを考慮

日南海岸の地形を活かして距離や勾配から、上級者、中級者、初級者の3つのレベルを考慮した内容とする。

2. 交通拠点等を起点に魅力スポットをつなぐ

サイクリングルートの発着地は交通拠点である鉄道駅や港などを基本とし、地域の観光資源である観光施設、飲食施設、道の駅など魅力スポットを周遊できる内容とする。

3. 全路線が候補

サイクリングルートは基軸となる国道220号をはじめ、日南海岸の景観や魅力スポットをつなぐ上で重要となる県道、市道など、全路線を候補とする。

4. エリア特色を反映

それぞれのサイクリングルートは各エリアの特色である“景観資源”、“歴史文化”などのテーマを掲げ、サイクリストに日南海岸の特色を感じ、魅力を満喫してもらえる内容とする

5. 安全性と快適性に配慮

トンネルなどの特殊部は可能な限り迂回路を設定し、サイクリストの安全性と快適性に配慮した内容とする。

第2節 日南海岸サイクルツーリズムを支える広域的かつ総合的な取組の推進

1. 日南海岸の実情に応じた自転車走行空間の整備

安全で安心な走行空間の提供に向けて、日南海岸の道路状況や交通状況を踏まえつつ、着手可能な路線から自転車の走行空間を明示する路面標示等の既存道路用地を活かした整備を推進する。あわせて、走行環境を向上させる新技術の活用を積極的に推進する。

2. サイクリストのニーズに配慮したサポート環境の拡充

サイクリストのニーズに配慮した快適なサポート環境の提供に向けて、走行時、休憩時、故障発生時など走行中の様々なシーンを想定したサポート環境の整備を推進するとともに、サイクリング走行ルートであることを案内・誘導するサイン整備を推進する。

3. サイクリストの利便性を高める取組の推進

サイクリングしやすい地域づくりに向けて、サイクリングロードに関わる有益な情報を多様な媒体で、わかりやすく情報発信するとともに、公共交通機関や宿泊施設などにおいて、気軽に自転車を持ち込むことができる利便性の高い地域となるよう取組を促進させる。

また、サイクリング初心者の方が気軽に自転車に乗ることができる仕組みや上級者がアクシデントなどを気にせずサイクリングできる仕組みづくりを促進させる。

4. 地域交流による憩いやくつろぎサービスの提供

憩いやくつろぎなど地域との交流による“おもてなし”のサービス提供に向けて、国内外のサイクリストがストレスなく、休憩や宿泊時にゆっくりと憩い、くつろぐことができる場づくりやそれら取組に関する情報発信などを促進させる。

5. サイクルイベントの充実・拡大による交流の促進

国内外の様々なサイクリストの活躍の場の創出に向けて、初心者向けの試乗レベルから上級者向けの本格的なロングライドに至るまで、定着してきた既存大会の運営の促進をはじめ、新たな大会の開催も視野に入れた取組を促進させるとともに、参加者と地域との交流を通してイベント開催の波及効果を効果的に取り込めるような地域の一体的な取組を促進させる。

6. サイクルツーリズムの普及・拡大を通じた地域振興の新たな展開

サイクルツーリズムによる地域振興の新たな展開に向けて、地域経済に大きな影響を与える裾野の広い観光産業の強みとサイクリングという新たな視点を融合させた新しい取組を官民一体となって推進するとともに、これらの取組の推進を通して地域の交流・連携を促進させるために地域とサイクリストの交流の橋渡しを担う人材の育成を促進させる。

第5章 構想の実現に向けて

本構想の実現にあたっては、日南海岸サイクルツーリズム協議会において構想の実効性を高めつつ着実に推進していくことが求められる。短中長期的な視点に立って事業実施の実現性の検討、実施主体の明確化を図りつつ、厳しい財政事情等を踏まえた効率的かつ重点的な取組の推進が求められる。

日南海岸サイクルツーリズムは、国、地方公共団体に加えて、民間事業者、NPO・ボランティア団体等の多様な主体の取組によって実現されるものであり、広域的な連携に向けた構想の推進方向に関する認識を関係機関の定期的な意見交換を通して、共有していくことが重要である。本構想が、日南海岸サイクルツーリズムを推進するための基本的な指針となることが期待される。

以上